



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：米国下院による「イラン拡散対抗法案」に対する反応（9月26-27日付現地報道）

1. ホセイニ外務報道官の発言（26日）

- (1) 革命ガードをテロ団体リストに指定する米国下院の新たな決定は、無責任で非合法的な措置であり、これを強く非難する。国連加盟国の国軍名をテロ団体リストに指定することは、驚くべき且つ前例のない行為であり、価値や信頼性を欠く。かかる軽率にして法的根拠を欠く決定は、国際社会における平和と安定の確立に資さないばかりか、あらゆる国が国際法規を遵守せず、他国の法的・公的機関を空想的で空虚な言い掛かりにより自国のテロ団体リストに加えることを許す状況をもたらすであろう。
- (2) 一体的な革命ガードの総体は、イランの革命的な国民の内的要望に依拠する軍隊であり、憲法の枠内で活動し、合法的活動を行っている。このような国民的軍隊と如何なる形であれ対峙することは、イランの偉大なる国民と対峙することであり、革命ガードを告発する者達は、実際のところ、自らを7千万のイラン国民に対峙させているのである。
- (3) 米国がこのような措置を講じているのは注意を逸らすためである。無辜の民間人に対する銃撃、テロ・グループの擁護とその武装化、秘密収容所の設置、非合法的な拘束、受刑者に対する拷問等は、イラク及びアフガニスタンにおける米軍の明白で証明済みのテロ及び非倫理的行為である。これらの悲劇及び非人道的過ちは、明確にして疑う余地のないテロ行為であり、あらゆる国家及び国際機関は、人類文明の全ての成果を嘲笑う米軍の非合法的な措置に対し、適切な反応を示すべきである。

2. モルテザ・サーベキ・革命ガード報道官の発言（27日付 IRNA 報道）

- (1) 革命ガードをテロ団体リストに指定するとの米国下院の最近の決定は重要ではない。革命ガードは、イランの民主的体制において、他の合法的機関と同様に合法的組織であり、米国下院の決定は、米国の対イラン敵対政策の枠組において、イランにおける革命ガードの力強い功績及びその国民的立場に打撃を与えることを目的に下されたものである。傲慢（な米国）の計画及び措置に対抗することにおける革命ガードの役割、及び米国の地域における侵略的動きを打ち砕く上での革命ガードの強大さにより、同決定は下されたのである。
- (2) イラクにおける米国占領軍の敗北は、同敗北の責任を他国に帰させることをワシントンに余儀なくさせた。但し、（地域には）イランを除き、強力なライバルが存在しないことから、米国は今回の驚くべき且つあらゆる国際法規及び基準に反する措置に着手したのである。
- (3) 革命ガードは、イラン・イスラム体制の主要な柱とみなされており、完全に国民的機関である。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799